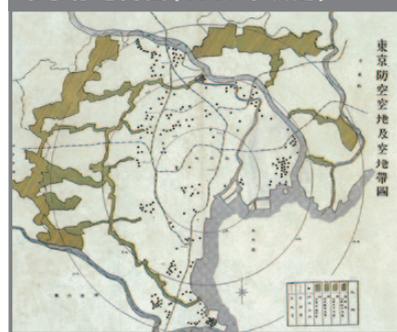


DISASTER RESILIENCE

安全・安心な高度防災都市

都心部を囲む形で木造の住宅が密集する地域が広がっています。道路の整備や住宅の建替えなどを進めるとともに、更新時期を迎えた大規模団地の建替えに併せ、緑に囲まれた安全な市街地へと再生していく必要があります。

東京緑地計画(1939年決定)*

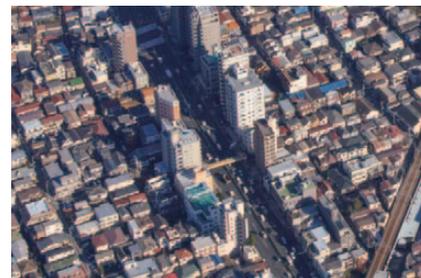


かつて東京には市街地の膨張を抑えるとともに緑地の不足を補うグリーンベルト構想がありました。



木造住宅密集地域の分布

山手線外周部を中心に分布している木造住宅密集地域は道路や公園等の都市基盤が不十分で、老朽化した建築物が多いために、地震火災による大きな被害が予想されます。大規模団地の建替え等に併せて良質な空間の整備の機会が訪れます。



市街地の延焼を遮断し、かつ、避難や救援活動の空間ともなる、都市計画道路の整備や沿道の建築物の不燃化などに取り組んでいます。



安全な避難場所の確保や広域的な避難を要しない「地区内残留地区」の拡大で、大規模な市街地火災から都民の生命を守ります。非常用の発電機や備蓄倉庫、帰宅困難者のための一時滞在施設の整備を、大規模な都市開発の際に併せて進めることで、災害時にも自立できる都市をつくっています。

提供:[災害時のモラル] ©朝日新聞社

延焼遮断帯の形成

市街地の不燃化



避難場所等の確保



老朽住宅の建替えを促進するなど市街地の不燃化により「燃えないまち」の実現に取り組んでいます。

災害時のモラル

2011年3月震災直後の混乱の中、被災者たちの秩序のある行動が海外で評価され、新聞でも取り上げられた。

NO IMAGE

出典：* 社団法人日本公園緑地協会「生誕百年記念 北村徳太郎公園緑地論集」1995年発行